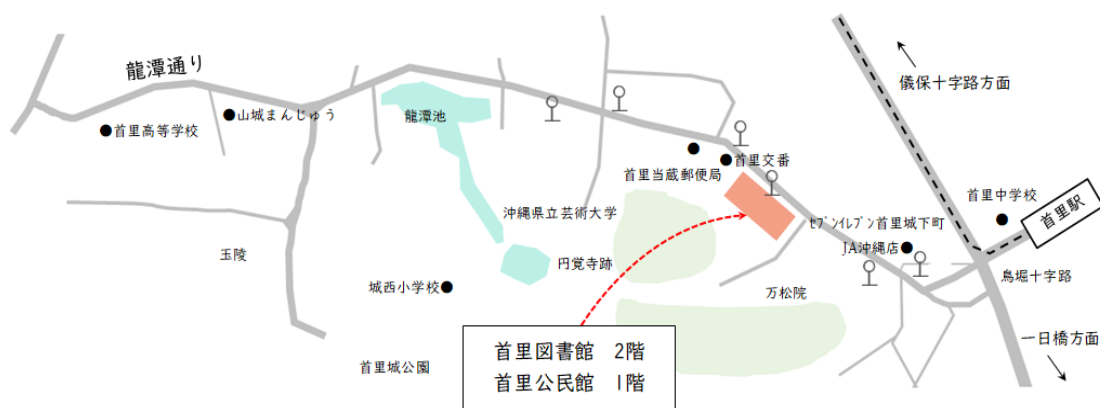


首里公民館



〒903-0812 那覇市首里当蔵町 2-8-2

TEL 917-3445 FAX 885-2063

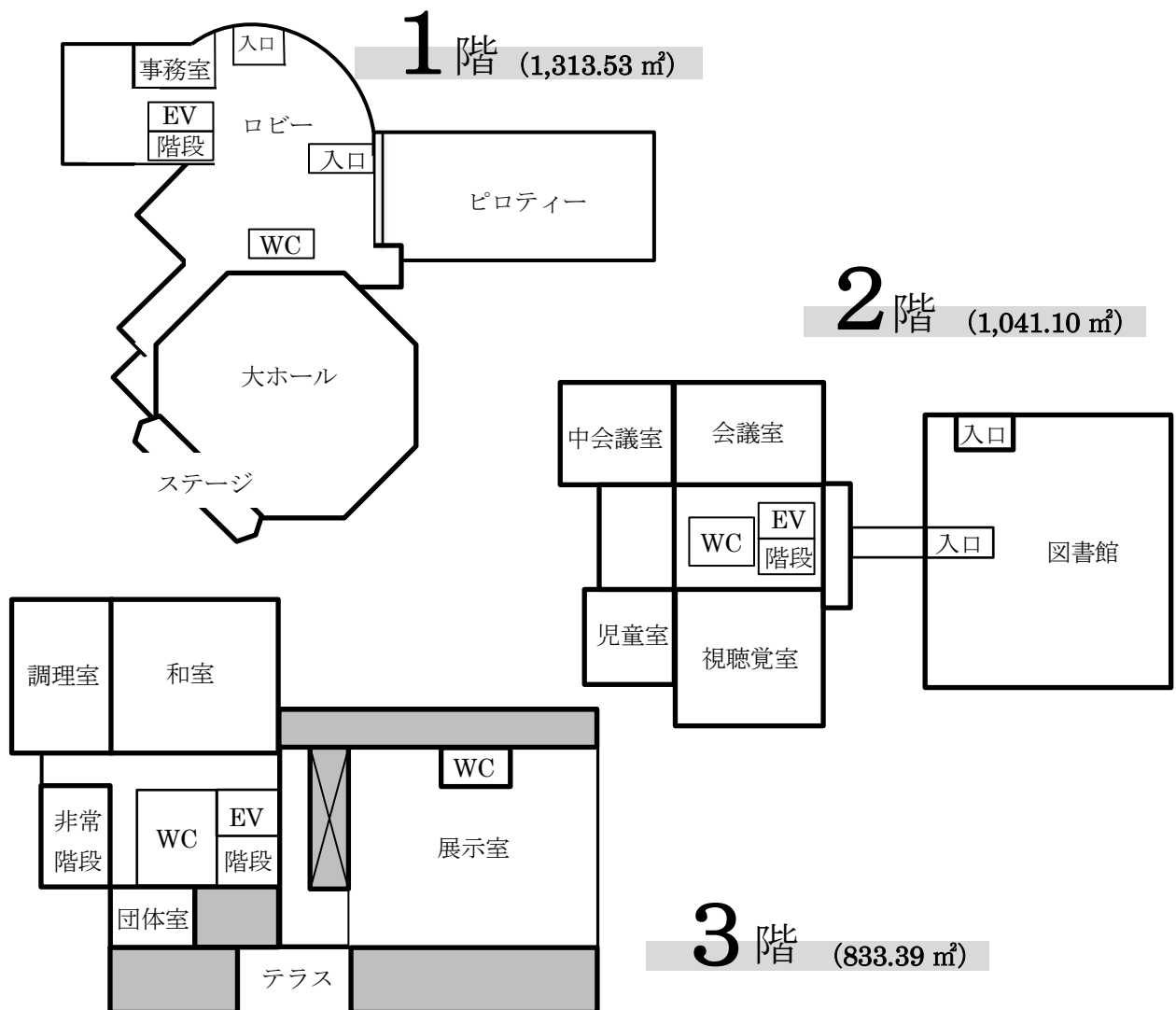
(URL)

<https://www.city.naha.okinawa.jp/kurasitetuduki/sankaku-kyoudou/1002706/1004745/1004833/index.html>



首里公民館 HP

利 用 施 設 の ご 案 内



部 屋 名	利用人数	用 途 (備 品)
ホ ー ル	300 人程度	講演会・研修会 (ピアノ・イス・テーブル)
ロ ビ ー		市民の憩いの場、学習スペース (50 席)
ピ ロ テ ィ ー	100 人程度	工作活動・野外の発表会 (野外ステージ)
ふれあいファーム		講座で使用する畑、軽易な遊び
会 議 室	30 人程度	研修会・講座・会議 (イス・テーブル)
中 会 議 室	20 人程度	研修会・講座・会議 (イス・テーブル)
視 聴 覚 室	30 人程度	視聴覚機器を利用した学習会・講習会 (イス・テーブル・DVD デッキ)
児 童 室	15 人程度	子どもの活動の場・会議 (イス・テーブル)
和 室	25 人程度	茶道・生け花・和裁・着付け等 (テーブル)
展 示 室	約 400 m²	学級、各団体の作品及び書道、写真等の展示
調 理 室	25 人程度	調理実習 (7 調理台・料理用器具等)
団 体 室	10 人程度	利用団体の連絡事務・少人数の会議 (イス・テーブル)

I 首里公民館の沿革

設計にあたっては一般公募（競技設計）方式を採用している。1982年（昭和57年）12月18日建設に着工、翌年の1983年（昭和58年）11月30日に竣工した。

同館は首里城の北東部、古くは蓮小堀（リングムイ）、その後の首里バスターミナル跡に位置している。首里城公園をちかくにひかえていることから、付近の景観とバランスを考慮した設計になっている。ホールと展示室の屋根には銅板を冠し、全体的に丸みを帯びた形になっている。

昭和58年 9 月 1 日	那覇市首里公民館開館準備のため主査 仲松弥寿博が発令された。
11 月 1 日	那覇市首里公民館の発足に伴い、主査 仲松弥寿博が配置された。
11 月 30 日	那覇市首里公民館の開館式が行われた。
12 月 15 日	自主グループ・サークルへの施設の提供が始められた。
昭和59年 2 月 8 日	公民館講座が開始された。
3 月 17 日	第1回首里公民館まつりが開催された。
昭和60年11月 1 日	首里公民館利用団体連絡協議会が結成された。
昭和61年 4 月 1 日	主事が公民館主事に職名変更された。
昭和62年 4 月 1 日	主査 仲松弥寿博配置換えにより、主査 佐久本全が発令された。
8 月 1 日	「広報龍樋」が創刊された。
平成元年 6 月 13 日	那覇市保育室運営要綱（公運審答申）に基づいて、乳幼児学級に保育室が設置された。
平成 2 年 4 月 1 日	主査が館長に職名変更された。
12 月 7 日	第20回沖縄県公民館研究大会において優良公民館として表彰された。
平成 4 年 4 月 1 日	館長 佐久本全配置換えにより、館長 平良豊宏が発令された。
平成 5 年 2 月 18 日	平成 4 年度沖縄県生涯学習振興大会において社会教育功労施設として表彰された。
平成 6 年 1 月 29 日	首里公民館開館10周年記念式典、祝賀会及び記念公演「組踊と舞踊の鑑賞会」が行われた。
4 月 1 日	館長 平良豊宏配置換えにより、館長 高江洲盛雄が発令された。
平成 8 年 4 月 1 日	公民館主事 1 減に伴い社会教育指導員 1 増。
11 月 1 日	第49回優良公民館として文部大臣表彰を受けた。
平成 9 年 4 月 1 日	館長 高江洲盛雄配置換えにより、館長 宮里憲幸が発令された。
平成13年 4 月 1 日	館長 宮里憲幸配置換えにより、館長 新垣紀夫が発令された。
平成15年12月 6 日	首里公民館開館20周年記念式典・祝賀会が行われ、記念誌が発刊された。
平成16年 2 月 15 日	首里公民館開館20周年記念講演会「関東公演成功までの軌跡」が行われた。
平成16年 4 月 1 日	館長 新垣紀夫配置換えにより、館長 手登根朗が発令された。
平成17年 4 月 1 日	社会教育指導員 1 減。
平成20年 4 月 1 日	館長 手登根朗配置換えにより、館長 上原昭則が発令された。
平成20年12月13日	開館25周年記念式典を 1 階ホールにて行なう。
平成22年 4 月 1 日	館長 上原昭則配置換えにより、館長 下地敏雄が発令された。
平成24年 4 月 1 日	館長 下地敏雄配置換えにより、館長 渡嘉敷宗清が発令された。
平成25年 4 月 1 日	館長 渡嘉敷宗清配置換えにより、館長 比嘉徳広が発令された。
平成25年11月30日	首里公民館開館30周年記念式典・祝賀会が行われた。
平成26年 3 月 4 日	第66回優良公民館として文部科学大臣表彰を受けた。

平成27年3月31日	首里公民館開館30周年記念誌が発刊された。
平成28年4月1日	館長 比嘉徳広配置換えにより、館長 田端研二が発令された。
平成30年4月1日	館長 田端研二配置換えにより、館長 上原堅次郎が発令された。
令和2年4月1日	館長 上原堅次郎配置換えにより、館長 細田聖子が発令された。
令和4年4月1日	館長 細田聖子配置換えにより、館長 宮平佳樹が発令された。
令和6年4月1日	館長 宮平佳樹配置換えにより、館長 金城浩二が発令された。

Ⅱ 令和7年度首里公民館事業目次

1	学習風景（写真）	81
2	成人一般対象事業	
	〔1〕 市民講座	
	◇「首里学校 2025」～戦後80年～	82
	◇平和朗読会～語り継ごう!!沖縄戦の実相を!!～	83
	◇めんそーれ 移住者さん2025	84
	〔2〕 成人講座	
	◇首里城下町 Night walk	85
	◇イケオジ倶楽部 首里	86
3	高齢者対象事業	
	〔1〕 高齢者学級	
	◇初めて触る!スマートフォン講座	87
	◇ふくらしや&守礼大学大学院「古の首里を訪ねる」	88
	◇「80歳以上限定「スマートフォンを楽しもう!」」	89
	◇「スマートフォン講座(初心者向け)」	90
4	青少年対象事業	
	〔1〕 少年教室	
	◇(秋休み特別企画)茶の湯(茶道)を体験しよう!	91
	〔2〕 青年講座	
	◇Bistrot 首里 2025	92
	〔3〕 親子ふれあい事業	
	◇親子で「首里」の自然を楽しもう!	93
5	家庭教育事業	
	〔1〕 家庭教育学級	
	◇発達障害～あなたのノビシロ～	94
	◇「みんなちがっていいんじゃない?～自尊心が未来を拓く～」	95
	〔2〕 乳幼児学級	
	◇「おやこびより～育ちあう季節～」	96
6	その他の事業	
	〔1〕 地域連携事業	
	◇首里高生と楽しく学ぶ 茶道のい・ろ・は	97

1 学習風景



高齢者学級

「スマートフォン講座（初心者向け）」



青年講座

Bistrot 首里2025



成人講座

イケオジ倶楽部2025



親子ふれあい教室

親子で「首里」の自然を楽しもう！



高齢者学級

石嶺公民館・首里公民館共催企画（高齢者学級）
ふくらしや&守礼大学大学院「古の首里を訪ねる」



市民講座

めんそーれ移住者さん 2025

2 成人一般対象事業

〔1〕 市民講座

講座名 タイトル		「首里学校 2025」～戦後80年～								
事業概要		第2次世界大戦で壊滅して復興するまでの歴史などを様々な角度から、那覇市特に首里について学んでいく。戦後80年、華やかに見える現況の背景にある「負」の部分の継承していくことの大切さを知る。								
現状・課題		戦後80年となる今、戦争を知らない世代が市民の大半を占めており、次世代へ沖縄戦を語り継ぐことも難しくなっているのが現状である。第5次那覇市総合計画の施策6においても平和を希求・継承について記載されている								
事業目的 めざす姿		先の大戦や復興の歴史などの経験を継承し、平和を希求する市民の思いとして受け継いでいくことを目指す。また、そこから那覇市への愛着を促すものとする。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：20人 申込：31人（うち受講決定数21人） 参加延べ人数：85人 【申込率155%・参加率81%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	5月23日(金)	10:00	～	12:00	養秀同窓会館	19	12	7	0
	02	6月6日(金)	9:30	～	12:30	首里城近隣	17	10	7	0
	03	6月21日(土)	13:00	～	15:00	首里高校視聴覚室	11	7	4	0
	04	7月4日(金)	10:00	～	12:00	瑞泉酒造	20	13	7	0
	05	7月18日(金)	10:00	～	12:00	識名園	18	13	5	0
内 容	01	首里城と一中学徒隊								
	02	第32軍壕について（フィールドワーク）								
	03	平和朗読								
	04	泡盛について								
	05	識名園について								
講 師		①大田 光（一中戦没学徒資料室解説員） ②仲村 真（沖縄県平和祈念資料館友の会） ③平和朗読・首里 with 首里高校合唱部 ④伊藝 堯明（瑞泉酒造株式会社） ⑤古塚 達朗（琉球歴史文化コンサルタント）								
【受講生の様子・感想】										
・「戦後80年講座」で、沖縄戦そのものの歴史だけではなく、多角的な連続講座だったのが興味をそそられた。幅広く学べ、収穫の多い講座を組んでくださったことに感謝。今後も、よそとは違う講座を企画して欲しい。5回とも実り多かった。 ・首里に住んで10年以上になるが、まだまだ知らない那覇の魅力があるのだと実感した。また、戦跡関連で仕事をしているが、非常に勉強になった。可能であれば、来年もチャレンジしたい。 ・アンケート結果(満足度)94% 										
【成果】										
・首里の魅力だけではなく戦争の傷跡や忘れてはならない事、戦争による壊滅からの復興など、首里の歴史と文化を受講者に伝えることができた。 ・比較的若い受講者もいた。広報でSNSを使ったことが影響したかと思う。 ・那覇市の歴史を、ある程度学んでいる人にも満足してもらえた。 ・「また受講したい」「次回も参加したい」など次の学びを望む声が多く、更に学んでいきたいという姿勢が伺える。 										



2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		平和朗読会～語り継ごう!!沖縄戦の実相を!!～								
事業概要		市民講座「首里学校」からの流れで、平和朗読会を開催する。戦後年、平和への思いを継承していくことの大切さを知る。沖縄県立第一中学校（現首里高等学校）に内容を寄せる。								
現状・課題		戦後80年となる今、戦争を知らない世代が市民の大半を占めており、次世代へ沖縄戦を語り継ぐことも難しくなっているのが現状である。第5次那覇市総合計画の施策6においても平和を希求・継承について記載されている								
事業目的 めざす姿		先の大戦や復興の歴史などの経験を継承し、平和を希求する市民の思いとして受け継いでいくことを目指す。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：無し 参加延べ人数：33人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月21日(土)	13:00	～	14:30	首里高校 視聴覚室	33	18	15	－
内容	01	平和朗読会～語り継ごう!!沖縄戦の実相を!!～								
講 師		なし								
【受講生の様子・感想】										
・戦争体験者から直接話を聞くことが難しくなっているが、朗読や合唱でも心に響いた。父として子にできる方法で平和の育て方伝えていきたいと思った。・場所問わず、可能な限り、戦争体験朗読や読み聞かせをして欲しい。今後、子供達とも一緒に参加したい・真剣な眼差しで、演者を見ていたのが印象的である。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
・伝えていくということでは合致していた。 ・会場を高校から借用したために大きく広報できず、チラシのみで広報だったため、参加者も少なかった。 ・子どもに伝えたい、親として伝えていきたい。というアンケートの声から、来場した人の今後の変容が期待できる。										









2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		めんそーれ 移住者さん2025								
事業概要		移住してきた市民をターゲットとし、那覇市・首里について地域の文化や歴史を学び、コミュニティ作り・仲間作りを促す。								
現状・課題		沖縄県・那覇市ともに人口は減少傾向にある。那覇市人口ビジョンにおいて長期目標として人口30万人を維持すると記されている。しかし近年、少子高齢化だけではなく、転入減少・転出増加により人口は減少傾向にある。また、令和5年度に開催した本事業の受講生からのヒアリングにて「移住してきた人で、沖縄の文化や食事、交通手段など様々な点で移住について不満を持っている人は少なくない」ことも明らかになっている。								
事業目的 めざす姿		仲間づくりを促進していく。沖縄・那覇の文化を理解することで、生活の充実感を高め、社会参加や地域活動への第一歩にする。								
対 象		那覇市在住か在勤で 沖縄に移住してきた人、かつ 仲間づくりしたい人								
募集人数等		定員：16人 申込：16人（うち受講決定数15人） 参加延べ人数：51人 【申込率100%・参加率85%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月23日(木)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館	13	3	10	—
	02	11月6日(木)	10:00	～	13:00	那覇市公設市場	13	3	10	—
	03	11月20日(木)	10:00	～	12:00	首里城公園集合	13	3	10	—
	04	12月4日(木)	10:00	～	14:00	新垣養蜂園	12	3	9	—
内 容	01	初顔合わせ								
	02	市場体験								
	03	首里のまちまーい（フィールドワーク）								
	04	王朝はちみつ体験+ランチ会								
講 師	谷本 拓也（茶屋.小料理たにもと）、伊集 守道（那覇市歴史博物館）、新垣 伝、新垣 晴子（新垣養蜂園）									
【受講生の様子・感想】										
・素敵な企画をありがとうございます♪お友達が増えて嬉しいです！！・ 行ったことがある所でも見えていなかったり知らない事が多く学びになった。他の移住者との交流が楽しかった・回を重ねる度に仲良し度数がどんどん高くなるのが見て取れた。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
・仲間ができるだけで心強さが高まり、それは生活にも反映される。その一助になったと考える。 ・市報だけではなく、地域のポスティングができれば尚よかった。 ・ゆんたくの様子からは受講者の意識に変化が見られ、LINEで今後も繋がって行く様子も見られた。										







2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル		「首里城下町 Night walk」								
事業概要		ウォーキングする時の正しい歩き方を学び、心と身体 の健康維持のために、実際に歩く。 毎回、正しい歩き方のレクチャーを受けた後、夜の首里地域を歩いてまわりながら正しい歩き方を実践する。								
現状・課題		那覇市民の一日に歩く歩数が、20歳から64歳が6000歩台、65歳以上の男女が5000歩前後（令和元年現在）である。「健康な21」の運動習慣の定着に向けた啓発と実践への支援の一環で、歩くことの習慣化及び自身の体力や健康状態を知り、自分に合った運動に取り組むことで、1日に歩く歩数を増やし、健康寿命を延ばす。								
事業目的 めざす姿		正しい姿勢でウォーキングを行い、定期的に歩くよう「習慣化」できるよう促す								
対 象		那覇市在住在勤在学の18歳以上の人								
募集人数等		定員：25人 申込：23人（うち受講決定数22人） 参加延べ人数：67人 【申込率92%・参加率76%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	9月25日(木)	19:00	～	21:00	首里中学校・首里地域	21	5	16	－
	02	10月2日(木)	19:00	～	21:00	首里中学校・首里地域	18	2	16	－
	03	10月9日(木)	19:00	～	21:00	首里中学校・首里地域	15	1	14	－
	04	10月23日(木)	19:00	～	21:00	首里中学校・首里地域	13	1	12	－
内容	01	正しい姿勢での歩き方・自分の歩幅を知ろう・実際に歩いてみよう								
	02	1回目の復習・ストレッチ・目標心拍数								
	03	1、2回目の復習								
	04	1、2、3回目の復習・ウォーキングと健康の関係について								
講 師		仲吉和美（那覇市ウォーキング協会）								
【受講生の様子・感想】										
・夜のウォーキングが楽しかったです。 ・ありがとうございました。（ウォーキングを）続けていきたいと思いま す。 ・アンケート結果（満足度）92.3%										
【成果】										
例年、首里公民館のホールでストレッチや歩き方のレクチャーを行って、夜の首里のまちを歩くという方法で行っていたが、大規模修繕による休館に伴い、近隣の首里中学校体育館にて開催した。回数も3回から4回に増やし、これまで歩いたことの無かった城東、石嶺方面も歩いた。この時期の首里は、まつりの練習や花の香り、風が心地よく、夜の首里の風景を楽しみながら毎回参加していただいた。アンケートにも「普段の歩き方を見直す良いきっかけになった」、「丁寧な説明で歩き方を学び、皆人と一緒に首里周辺をウォーキングでき、とてもリフレッシュする事が出来ました。」等、受講したことにより、歩き方の意識が変わり、受講前と受講後で歩く姿勢に変化が見てとれた。										





2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル		イケオジ倶楽部 首里								
事業概要		定年前後の男性をターゲットとし、コミュニティ作り・仲間作りを促し、心身共に健康で年を重ねることで健康寿命を伸ばすことを目標としており、本企画により生涯学習へ関心を持ってもらう機会とする。〈事業終了後、定期利用団体として活動することを想定〉								
現状・課題		那覇市の総人口はR5年度で31.7万人台、R22年度には30万人を下回る可能性がある一方、高齢化率がR5年度は24.6%、R22年度には32%となる見込みである。2024年に自宅で亡くなった1人暮らしの人は全国で約7.6万人であり、その8割近くが65歳以上で、孤独死（死後8日以上経過で発見）が2.18万人いた（警察庁調べ）。「社会的孤立」は時代の課題といえる。退職後も交友関係が維持しやすい女性に比べ、男性は職場が唯一の社会参加という人が圧倒的に多いため、退職＝人間関係途絶となる。								
事業目的 めざす姿		本市は「高齢者がいきいきと、支えあいのある地域の中で、安心して暮らせるまち」を【第9次なは高齢者プラン】の基本理念としている。定年退職前の者を含めることにより、既に退職している対象者も刺激を受けることを期待し、「いきいきと、支え合いのある社会」で心身ともに健康寿命を伸ばしていくことを目標とする。								
対 象		那覇市内在住・在勤で50才～69才の男性								
募集人数等		定員：12人 申込：12人（うち受講決定数12人） 参加延べ人数：45人 【申込率100%・参加率75%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月1日(日)	10:00	～	12:00	IT創造館	9	9	0	0
	02	2月8日(日)	10:00	～	12:00	IT創造館	7	7	0	0
	03	2月15日(日)	10:00	～	13:00	首里城公園	9	9	0	0
	04	3月1日(日)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館	10	10	0	0
	05	3月8日(日)	10:00	～	16:00	牧志駅前ほしぞら公民館 →公設市場調理室	10	10	0	0
内容	01	コーディネート術								
	02	アンガーマネジメント								
	03	歴史散策in首里城編								
	04	調理 準備編								
	05	調理 豚汁with Bistrot首里								
講 師		渡嘉敷しんこ、座覇太美子、古塚達朗								
【講座の様子・感想】										
・座学のテーマも講師もすばらしかった。友人を新たに作るのは自分だけでは難しいがそれができた。 ・参加者が誰1人離脱することなく5回参加したことが成功の証！ ・提案していただいて本当にありがとうございました。すばらしい企画でした。 ・アンケート（満足度）100%										
【成果】										
・学びの内容だけではなく、交流や話をすることの楽しさに気づき、最終回は涙を流す人もいた。今後も交流を継続していきたい。 ・高齢化社会を見据えてのターゲット層が良かった。 ・また集まりたいと受講者自身から言葉が出た。 ・前年度の受講生の事後アンケートでも、積極的に料理をしたり公民館の講座を採るようになったとのことで成果は高い。										

3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		『初めて触る！スマートフォン講座』								
事業概要		デジタル技術の進歩に伴い、インターネットやスマートフォン等を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差（デジタル・ディバイド）が広がっている。那覇市のDX推進計画では、デジタルを不得手とする市民に対して機器類を使いこなすことができるよう取り組むことを挙げている。誰もがデジタルの恩恵を受け、デジタルリテラシー（デジタルに関する知識や能力を活用する力）を身に着けるための入門編として、DX推進室の協力の下、スマートフォン講座を開催する。								
現状・課題		内閣府「情報通信機器の利活用に関する世論調査」（R5.7）によると60歳以上のシニア層では、35%以上がスマートフォンやタブレットを不要とし、40%近くが使い方がわからないとある。デジタル化が進む中で、「使いこなせない」ことの問題を解消する。								
事業目的 めざす姿		①座学と実機体験を交えた講座を開設し、スマートフォンでよく利用されているアプリケーション（地図とLINE）の使い方を学び、利用者自身で使えるようになる。 ②スマートフォンでの買い物をを行った場合の決済やセキュリティについて学習し、使えるようになる。								
対 象		那覇市在住在勤の60歳以上								
募集人数等		定員：40人 申込：54人（うち受講決定数49人） 参加延べ人数：44人 【申込率135%・参加率45%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	4月17日(木)	10:00	～	12:00	首里公民館	18	1	17	－
	02	4月25日(金)	10:00	～	12:00	首里公民館	26	3	23	－
内 容	01	①スマートフォンの楽しさ、便利さを体験する。ガラケーとスマホの違いや特長を学び、スマホならではの楽しみ方も学習する ・ガラケーとスマホの違い・スマホの特長 『LINE』 ・音声入力でグループトーク体験 ・友だち追加追加方法 ・写真やスタンプの送信体験								
	02	②気になる『スマホ用語』や『詐欺対策』と『スマホ決済』について 普段気になる『スマホ用語』や、近年増えている詐欺についてスマホでできる『対策法』やスマホの『セキュリティ』について知る ・スマホ用語 ・詐欺対策 ・セキュリティ 『スマホ決済』（電子決済の種類や特徴について） ・キャッシュレスとは、利用方法の体験 『セキュリティ』 ・よくある詐欺手口とは ・安心して利用するための心得								
講 師		ソフトバンク株式会社 スマホアドバイザー（1人）・サポートスタッフ（3人）								
【受講生の様子・感想】										
・わかりやすくて勉強になった ・すごく勉強になりました。 ・活用しているラインのスピーカー入力方法を知ることが出来て良かったです。 ・アンケート結果（満足度）75.8%										
【成果】										
・スマートフォン販売店で普段アドバイザーをしている方による講座であった。 ・市民の友、チラシによる広報を行い、定員以上の申込みがあった。 ・スマートフォンの扱いに苦慮している初心者及びスマートフォンを利用した買い物、詐欺対策について学びたい高齢者をターゲットにした。 ・普段利用するアプリケーションの便利な機能の使い方を学ぶことができたという声があった。										



3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		石嶺公民館・首里公民館共催企画（高齢者学級）ふくらしや&守礼大学大学院「古の首里を訪ねる」								
事業概要		王都首里にふさわしい御殿・殿内の屋敷跡や首里に多く存在する拝所の御嶽・自然の景観を活かした名勝地などを実際に歩いて観て廻り、健康的に楽しく学習する。例年、首里公民館主催事業「守礼大学」として、首里地域一帯を廻っていたが、今回石嶺町、末吉町も含め、石嶺公民館の「ふくらしや大学」と共催で行うことにより、首里の広範囲を学習する。								
現状・課題		首里城や玉陵といった世界遺産は、観光地として人気があり、観光ガイド等でも学習することができるが、石嶺を含めた首里一帯の御殿や殿内、御嶽をまとめて学習する機会はない。								
事業目的 めざす姿		首里地域にある歴史的建造物や名勝地などについて学習し、知見を深める。								
対 象		那覇市在住在勤の60歳以上								
募集人数等		定員：20人 申込：27人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：56人 【申込率135%・参加率93%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	5	12月5日(金)	9:00	～	11:30	首里城周辺(有料地域除く)・玉陵	19	8	11	—
	6	12月12日(金)	9:00	～	11:30	大中町・桃原町	18	7	11	—
	7	12月19日(金)	9:00	～	11:30	当蔵町・修了式	19	8	11	—
						※1～4回目は石嶺公民館主催				
内容	5	・第5回（12/5）：首里城周辺（有料地域除く）・玉陵								
	6	・第6回（12/12）：大中町・桃原町								
	7	・第7回（12/19）：当蔵町・修了式								
講 師		真喜志 清・屋嘉比 茂（特定非営利活動法人 那覇市街角ガイド）								
【受講生の様子・感想】										
・初めて行く場所や初めて知る話もあり収穫の多い講座でした。聞いたことのある歴史的な出来事も実際に足を運ぶことでより実感が持て、知識欲が湧きました。ガイドのお2人の説明も分かりやすく、楽しい7回講座でした。ありがとうございました。 ・たいへん有意義な機会でした。琉球史について、学び直すいい機会でした。ありがとうございました。 ・アンケート結果（満足度）88.9%										
【成果】										
・例年、首里公民館単独開催で5回講座で取り組んでいた講座を石嶺公民館と合同で取り組み、石嶺地域も含めた首里地域の広範囲を学習の対象とした。 2時間以上歩きながら名所・旧跡を巡り、解説を7週に渡って学ぶという事で参加率が徐々に下がると想定していたが、実際は平均9割以上の参加率であった。知力のみならず、体力も要求される講座である。知識欲は、運動にもつながるという事がわかった。歩き方のレクチャー等を講座に盛り込むといった事も次年度検討しても良いかもしれない。また、アンケートに更に深く学びたいという声もあったので、次年度は受講終了後に歴史を学習するサークルへの参加を促すことも行っていきたい。										

3 高齢者対象事業

〔1〕高齢者学級

講座名 タイトル		「80歳以上限定「スマートフォンを楽しもう！」」								
事業概要		デジタル技術の進歩に伴い、インターネットやスマートフォン等を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差（デジタル・ディバイド）が広がっている。那覇市のDX推進計画では、デジタルを不得手とする市民に対して機器類を使いこなすことができるよう取り組むことを挙げている。誰もがデジタルの恩恵を受け、デジタルリテラシー（デジタルに関する知識や能力を活用する力）を身に着けるための入門編及び、80代の方でもスマートフォンのよく利用するアプリを使いこなせるようなプログラムとする。								
現状・課題		内閣府「情報通信機器の利活用に関する世論調査」（R5.7）によると60歳以上のシニア層では、35%以上がスマートフォンやタブレットを不要とし、40%近くが使い方がわからないとある。デジタル化が進む中で、「使いこなせない」ことの問題を少しでも解消できるよう学習する。本講座は、80代以上の市民をターゲットに行うので、学習内容をより絞り込んで利用頻度の高いツールについて学ぶ。								
事業目的 めざす姿		スマートフォンでよく利用されているアプリケーション（YouTube、LINE、ビデオ通話、二次元コード、地図、音声入力）の使い方を中心に学ぶ。								
対 象		那覇市在住在勤の80歳以上								
募集人数等		定員：10人 申込：17人（うち受講決定数10人） 参加延べ人数：17人 【申込率170%・参加率85%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	1月21日(水)	14:00	～	16:00	なは市民活動支援センター	9	4	5	-
	02	1月22日(木)	14:00	～	16:00	なは市民活動支援センター	8	3	5	-
内容	01 ～ 02	①インターネット検索 ②YouTubeの利用法 ③LINE（写真の保存と送り方、地図の送り方） ④音声入力 ⑤MAP（ナビの使い方、バスに乗る時間の見方） ⑥Googleレンズの使い方、⑦二次元コードの使い方								
講 師	比嘉りつ子（那覇市シルバー人材センター）									
【受講生の様子・感想】										
・はじめてでよかった気づきがふえました、マンツーマンでていねいに指導していただきまして良かった。 ・主講師とサポートする講師の連携が良かったが、時間が少なく進捗が早かったので理解が難しかった。 ・アンケート結果（満足度）88%										
【成果】										
・はじめに知っておきたい日常生活に役立つアプリの活用方法を実践的に学ぶ機会になったと考える。 ・シニア層がよく利用する「市民の友」、チラシを活用した。 ・デジタルに苦手意識を持つシニア世代をターゲットにした。 ・受講生の中にはスマートフォンは持っているものの、これまで何となく使っていたという方も多かった。画面のタッチ操作といった基本から講師の方へ質問しながら楽しく学んでいる様子が見られた。 ・「1回、2回では覚えられない、繰り返しやることで覚える」との声があり、学びに対する前向きな姿勢が感じられた。										







3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		「スマートフォン講座（初心者向け）」								
事業概要		デジタル技術の進歩に伴い、インターネットやスマートフォン等を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差（デジタル・ディバイド）が広がっている。那覇市のDX推進計画では、デジタルを不得手とする市民に対して機器類を使いこなすことができるよう取り組むことを挙げている。誰もがデジタルの恩恵を受け、デジタルリテラシー（デジタルに関する知識や能力を活用する力）を身に着けるための入門編である。								
現状・課題		内閣府「情報通信機器の利活用に関する世論調査」（R5.7）によると60歳以上のシニア層では、35%以上がスマートフォンやタブレットを不要とし、40%近くが使い方がわからないとある。デジタル化が進む中で、「使いこなせない」ことの問題を少しでも解消できるよう学習する。								
事業目的 めざす姿		スマートフォンでよく利用されているアプリケーション（YouTube、LINE、ビデオ通話、二次元コード、地図、音声入力）の使い方を中心に学ぶ。								
対 象		那覇市在住在勤の60歳以上								
募集人数等		定員：20人 申込：30人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：51人 【申込率150%・参加率85%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	1月26日(月)	14:00	～	16:00	なは市民活動支援センター	18	9	9	－
	02	1月28日(水)	14:00	～	16:00	なは市民活動支援センター	17	9	8	－
	03	1月29日(木)	14:00	～	16:00	なは市民活動支援センター	16	7	9	－
内容	01	①インターネット検索 ②YouTubeの利用法 ③LINE（写真の保存と送り方、地図の送り方）								
	02	④音声入力 ⑤MAP（ナビの使い方、バスに乗る時間の見方）								
	03	⑥Googleレンズの使い方、⑦二次元コードの使い方								
講 師		比嘉りつ子（那覇市シルバー人材センター）								
【講座の様子・感想】										
- 初めてのインターネット検索、YouTube、音声入力等は講座で少し知ようになった。講師の先生方は丁寧、熱心な指導で良かった。 - 今回の講座で絵文字とスタンプの違いが理解できた、また簡単にスタンプが出せてうれしい。 - アンケート結果（満足度）47%										
【成果】										
- 日常生活に直結する便利なアプリの活用方法について、学習する機会を設けることが出来たと考える。 - シニア世代が目にする市民の友、チラシを活用し、申込期間2日目で定員を超えた。スマートフォン初心者、スマホ操作に不安を感じるシニア世代をターゲットにした。 - 聞いたことはあったけど、利用したことのないアプリについて、不安から始まった一歩がやがて楽しみへと変わり、見方が広がっていく様子が伺えた。ペースについて「少し早かった」との声や、「このような講座に再び参加したい」と前向きな声も聞かれた。スマホは電話だけではなく、生活を便利にするツールという事を知るきっかけになったのではないかと感じた。										







4 青少年対象事業

〔1〕少年教室

講座名 タイトル		(秋休み特別企画) 茶の湯（茶道）を体験しよう！								
事業概要		茶道における礼儀作法やお茶の飲み方及び点て方、運び方、出し方等を学ぶ								
現状・課題		学校教育や家庭教育のなかで、礼儀作法や客のもてなし、所作、相手への気遣い、文化や歴史を一度に学ぶということは難しい。茶道の体験を通して、上記の内容を学ぶ事で日本文化及びおもてなしの精神を学ぶ。								
事業目的 めざす姿		日本の伝統文化の一つである「茶道」を体験することで、礼儀作法や歴史・文化を学び、お茶で使われる道具類（花、陶器、和菓子）に触れる事で美意識を養う。								
対 象		那覇市の小学校に通う3年生から6年生								
募集人数等		定員：20人 申込：21人（うち受講決定数21人） 参加延べ人数：38人 【申込率105%・参加率90%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月16日(木)	14:00	～	16:00	石嶺公民館	19	5	14	-
	02	10月17日(金)	14:00	～	16:00	石嶺公民館	19	5	14	-
内 容	01 ～ 02	1. 開講式 2. 茶道ってなあに？ 3. 抹茶ってからだにいいの？ 4. お点前ってなあに？ 5. どうやって飲むの？ 6. お菓子 7. 実際にお茶を点ててみよう								
講 師	講師：佐久間宗理（茶道裏千家教授）・土屋宗恭（一般社団法人茶道裏千家淡交会沖縄支部）									
【受講生の様子・感想】 ・はじめて茶道でお茶をたてる体験がとても楽しかったです。 ・1つ1つていねいに教えてくれていろいろなことを発見することがたのしかった。 ・アンケート結果（満足度）94.4%										
【成果】 ・昨年の講座、公民館まつりにおける実践と今回の講座を通して、茶道の講座は、日本文化や礼儀作法について楽しく学ぶ講座はニーズがあると実感した。 ・広報はスクリレを使用して、受講生を募集し定員を超える応募があった。 ・7割以上の受講生が茶道を継続して学びたいという記載があった。 ・前年の首里公民館で行った茶道の講座に参加した受講生も数人参加されていた。										



4 青少年対象事業

〔2〕 青年講座

講座名 タイトル		Bistrot 首里 2025								
事業概要		首里地域に青年が足を運ぶ機会を作り、実際に集まってコミュニケーションを取る喜びを体験し、仲間づくりへと促していく。また、各回において首里を体験・文化学習する機会を設けることにより、首里への関心を引く。各回学びの後には交流会を設定する。								
現状・課題		① 人との繋がり→那覇に限らず、都市化が進むにつれて、以前よりもコミュニティや人とのつながりが希薄になり、孤独を感じる青年世代を含む人が増えている。また、社会人は職場以外の人と繋がる機会は少ない。 ②健康寿命の短縮→ 沖縄県民全般の課題として、車の多用による「歩く機会の少なさ」が大きな要因の一つと言える。								
事業目的 めざす姿		三回の異なるテーマ（歴史、自然、撮影）を設定することで、参加者が飽きずに意欲を持ち続けて連続参加できることを狙う。三回を経て、コミュニティの結びつきや健康増進の第1歩、そして地域への愛着を育む効果を期待する。								
対 象		那覇市在住か在勤もしくは在学している20歳以上30代までの青年								
募集人数等		定員：15人 申込：18人（うち受講決定数17人） 参加延べ人数：45人 【申込率120%・参加率88%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	12月20日(土)	10:30	～	13:00	首里城首里杜館	15	4	11	－
	02	1月17日(土)	10:30	～	13:00	首里城首里杜館	16	4	12	－
	03	2月14日(土)	11:00	～	14:30	ア ドウマン	14	4	10	－
内容	01	首里を撮る								
	02	首里の自然散策								
	03	首里の史跡めぐり（史跡・戦跡）								
講 師		A：高野大（県立芸大）、B:新垣伝（新垣養蜂）、C:伊集守道（那覇市歴史博物館）								

【受講生の様子・感想】

・とても楽しい時間だった。今まで人見知りで、人とコミュニケーションは、いつも緊張していたけれど、先生や他の受講生ともお話できて、充実した時間で参加してよかった。
・首里を歩きながら専門家から話を伺えるのは面白かった。もっと時間を長く、詳しく学びたい。
・最終回は講師と相談し、知り合い同士をばらし、コミュニケーションを促した。毎回、視点を变えての散策だったので、飽きることなく楽しく学べた様子だった。
・アンケート結果（満足度）100%



【成果】

・目指す姿を「首里を歩き、コミュニケーションを取り、飽きずに参加」していたため、合致している。
・SNSや、これまでの受講生から広がっていった。
・長時間歩くのが苦痛だと言っていた人もいたが、最後まで全員が笑顔だった。そして、講師のいる「学びの時間」をもっと長くして欲しいという声が複数上がっている。



4 青少年対象事業

〔3〕親子ふれあい事業

講座名 タイトル		親子で「首里」の自然を楽しもう！								
事業概要		首里にある自然をモノ作りや生き物観察を通して、親子間のコミュニケーションの大切さ、楽しさを体感し、郷土の自然とコミュニケーションについて学ぶ。 1回目：ミツバチの生態や人間の生活とミツバチの関係、首里の自然の移り変わりを座学やゲーム、ハチミツの試食等、蜜蝋のキャンドル作り等、五感を使って学習する。 2回目：親子で写真の撮り方と末吉公園に生息する動植物について学習した後、実際に親子でテーマを決めて撮影し、その後、児童が発表する。								
現状・課題		郷土の自然とその自然がもたらす恩恵や人間生活への影響などを首里末吉にある「森の家みんな」及び末吉公園にて学習する。								
事業目的 めざす姿		首里の自然をそれぞれの視点から体験学習を通して、親子一緒に学びながらコミュニケーションを深める。								
対 象		那覇市内の小学校1～3年の児童とその保護者								
募集人数等		定員：20組 申込：37組（うち受講決定数22組） 参加延べ組数：22組（44人） 【申込率185%・参加率50%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月7日(木)	13:30	～	16:00	森の家みんな	22	1	10	11
	02	8月13日(水)	13:30	～	16:00	森の家みんな	22	4	7	11
内容	01	首里の自然①首里の森で蜜蝋キャンドルを作ってみよう！（講師：新垣伝、新垣晴子）								
	02	首里の自然②「首里の自然を撮ってみよう！」講師：仲本賢、高野大（沖縄県立芸大）、藤井晴彦（沖縄自然環境ファンクラブ）								
講 師		新垣伝・新垣晴子（新垣養蜂園）、仲本賢・高野大（沖縄県立芸大）、藤井晴彦（沖縄自然環境ファンクラブ）								
【受講生の様子・感想】										
・ゲームや勉強などを通してハチミツ、ミツバチの事が良く理解できました。 ・カメラ初心者でしたので、わかりやすく、難しい事はなくよかったです。末吉公園と沖縄の話も面白かったです。発表で色々な話や写真がみれて勉強になりました。虫とカメラの専門的な話がとてもおもしろかったです。 ・アンケート結果（満足度）97.7%										
【成果】										
・「首里の森で蜜蝋キャンドルを作ってみよう！」は、座学だけではなく、ゲームや蜜蝋キャンドル作り、はちみつを試食といった多角的且つ児童も保護者も楽しみながら学べるよう心掛けた。 ・スクリーンを主に利用し、定員を超えた。 ・首里の自然について学びたい小学生とその保護者。 ・子どもと夢中になって撮影や撮影場所を探したり、観察している保護者が何人もいた。 ・保護者自身も一眼レフカメラに触れた経験が無い方が多く、楽しみながら学習している親子の様子が伺えた。										







5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		発達障害～あなたのノビシロ～								
事業概要		少子化により、児童生徒数は減少していく中、小中学校の支援学級（情緒）は増加し続けている。発達障害の理解と、家族に対し家庭教育として親ができること、学校や地域ができることなど、市民に対して情報を提供しつつ、不安解消へと近づけていく。								
現状・課題		・ 那覇市支援学級の児童生徒数は増加し続けている。（2007年→233名、2022年→1431名） ・ 不登校やひきこもりへ移行する可能性が高く、次なる社会課題への一因となる ・ 成功体験が低いことにより自己肯定感が低くなることが多い ・ 対応している親が疲弊してしまう								
事業目的 めざす姿		第5次那覇市総合計画基本構想第2章「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち」施策15「親と子が地域の中で共につながり健やかに暮らせるまちをつくる」、施策11「障がいのある人が安心して暮らし、働けるまちをつくる」の一助とする。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学中、テーマについて知りたい人								
募集人数等		定員：30人 申込：33人（うち受講決定数33人） 参加延べ人数：72人 【申込率110%・参加率73%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月16日(土)	10:00	～	12:00	なは市民活動支援センター会議室1	23	6	17	—
	02	8月23日(土)	10:00	～	12:00	なは市民活動支援センター会議室1	25	7	18	—
	03	8月30日(土)	10:00	～	12:00	なは市民活動支援センター会議室1	24	6	18	—
内 容	01	発達障害について概要								
	02	ノビシロを考える（親の寄り添い）								
	03	言葉の選び方								
講 師		鈴木ミナ子（看護大学）、三橋亜希子（ビリーブハート）、山口幸乃（さぽーとせんたーi）【技術支援】宮里弥杉								
【受講生の様子・感想】 ・ 「うちの子は何で出来ないんだろう？わからないんだろう？」と考えてきたが、「何に困っているんだろう？」の考え方へシフトチェンジする事が出来た。また考え方を変えた事で、自身の思考の癖とも向き合えた。・ 子育てで悩んでいる事がなかなか相談できないので、受講後に、すべき事が明確になった。・ （対面の）受講生は熱心にメモをとり、終了後も講師に話しかけに行く姿が印象的だった。オンラインの感想からは、自宅で家族と情報を共有して子育てに向き合う姿が伺えた。 ・ 会場アンケート結果（満足度）95% ・ オンライン参加141人、満足度 100%										
【成果】 ・ 悩みを抱える子育てに関する人が対象なので「生活に活かしたい」「新たな気づきがあった」という声が多くあった。また、受講した人が関係者に本講座についてシェアしていたことは目的に合致していたといえる。 ・ デジタルとアナログで行った。開催場所を明示していなかったことを改善していきたい。 ・ これからも公民館の講座を受けたいという声があがっていた。										



5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		「みんなちがっていいんじゃない?～自尊心が未来を拓く～」								
事業概要		不登校やひきこもることにより、「将来(いわゆる8050問題)」を不安に思う親は多い。行政窓口で相談することはハードルが高いこともあるが、公民館であればそれは低く、当事者は情報を得ることができる。アーカイブ配信も併せて実施する。								
現状・課題		・那覇市支援学級の児童生徒数は増加し続けている。(2007年→233名、2022年→1431名) ・不登校やひきこもりへ移行する可能性が高く、次なる社会課題への一因となる 全国的に不登校の児童生徒が増加しており、那覇市の小中学校でも、H28年度以降増加傾向にある。全国平均の不登校率より沖縄県の不登校率は高くなっており、小学校だけではなく、中学、高校も沖縄は不登校率が高い。 ひきこもりの人数については詳細なデータが開示されていないが、沖縄県内では推計13,800人、那覇市においては約2,800人(令和4年3月末時点の地域保健課推計)とされている。これまでの不登校やひきこもりについて実施してきた事後アンケートでも、親なき後、子がどのように生きていけるのかを不安に感じている保護者は多いことがわかる。								
事業目的 めざす姿		第5次那覇市総合計画基本構想第2章「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち」施策15「親と子が地域の中で共につながり健やかに暮らせるまちをつくる」。情報を得ることで、望ましい行政窓口への相談を促す								
対象		那覇市内在住・在勤・在学で、テーマについて知りたい人								
募集人数等		定員：30人 申込：17人(うち受講決定数17人) 参加延べ人数：9人 【申込率57%・参加率53%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	12月12日(金)	15:00	～	17:00	なは市民活動支援センター会議室	9	3	6	—
内容	01	・親の生き方を考える ・自分が幸せでないと伝えられないこと ・コミュニティへの絆								
講師	平野厚雄 (一社)日本自閉症啓発推進委員会 代表理事									
【受講生の様子・感想】 ・自分は自尊心を育む声かけができていたか振り返るいい機会になった・今自分に足りないと思っていた事が言語化されていてハッとした。講師の言葉に涙ぐむ受講生もいた。終了後は講師だけではなく、職員にも声をかけて、今後の動き方について言語化する受講生もいた。 ・会場アンケート結果(満足度)100% ・オンライン参加108人、満足度 100%										
【成果】 ・個性を認め、個性を育むという内容に受講生の表情が次第に明るくなっていった。・自分の価値観を広げるきっかけになった。 ・年末の平日昼という時間にも関わらず、受講生が集まった。中には夫婦で参加の人もおり、熱心さが伺えた。 ・困っているだけではなく、今後は子どもに寄り添いたい旨の声が出ているので、目指す姿に近づき、今後の変容も大いに期待できる。										







5 家庭教育事業

〔2〕乳幼児学級

講座名 タイトル		「おやこびより～育ちあう季節～」								
事業概要		乳幼児の育児をしているすべての保護者に対し、役割や義務感ではなく、子に関心をもつことの大切さや喜びを伝えることを狙いとする。家庭教育のスタートとして、楽しみながら意識を高めていく。								
現状・課題		第5次那覇市総合計画 第3章「めざすまちの姿」施策21において「核家族化が進み、家庭や地域での保育力、教育力の低下が認められる。また、2015(平成27)年度乳児健診受診者の中には、発達障がいに関する相談や、不規則な生活習慣、むし歯についての問題を抱えている子どもがいるとされている（第5次那覇市総合計画基本計画 施策15）。また、ひとり親世帯支援や核家族の増加についても那覇市の課題である。								
事業目的 めざす姿		「第5次那覇市総合計画基本計画」施策15では「全ての親と子が、地域とのつながりを感じ、安心して出産子育てに取り組めるよう、乳幼児の健康支援から子育て支援サービスへつながる包括的な支援サービスの充実を図る」とある。本事業によって「安心できる子育て」「夫婦で楽しむ子育て」「つながる子育て」を学ぶ機会とする。また、性別に関係なく、親と子が共に育ち合える学びの機会を提供し、ひとり親世帯の参加者も取りこぼすことないよう配慮する（毎年度、母子世帯の参加がある）。また、健康な21第4章 基本方針2に記載の「幼少期からの生活習慣や健康状態は、成長してからの健康状態にも大きく影響を与える」にも着目する。先に実施されている家庭教育学級の発達障害をテーマにしたアーカイブ受講も推進したい								
対 象		1歳の子を持つ保護者								
募集人数等		定員：15組 申込：7組（うち受講決定数7組） 参加延べ組数：25組 （58人） 【申込率47%・参加率89%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月4日(土)	10:00	～	12:00	IT創造館	16	3	6	7
	02	10月18日(土)	10:00	～	12:00	那覇市民活動支援センター	17	4	6	7
	03	11月1日(土)	10:00	～	12:00	IT創造館	11	1	5	5
	04	11月15日(土)	10:00	～	12:00	那覇市民活動支援センター	14	2	6	6
内容	01	劇団によるプロジェクションマッピングで絵本の世界を体感								
	02	金育								
	03	三線								
	04	アンガーマネジメント								
講 師	①劇団企画ユニット「ユニココ」②SMBC③田淵愛子（琉球古典音楽歌三線奏者）④座覇太美子（リンクライフ株式会社）									
【受講生の様子・感想】										
・親の気落ちに寄り添っていただき、ためになる講座だった。毎日悩んでいる内容だったので、さっそく実践したい。託児付きで参加しやすくてありがたかった！・普段できていないことについてお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。・3回目には、雑談や笑いが飛び交うほどに仲良くなっていた。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
・夫婦で「楽しみながら学ぶ姿」が多くあったので、合致している。 ・広報に苦勞し、反省が多い。 ・親の安心が子に伝わり、お互いの心身に影響があるため、親と子のための学びであったと考える。 ・「さっそく今日から活かしたい」「学びが楽しくなった」という声が出ているので、行動変容は見られると受け取る。										







6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		首里高生と楽しく学ぶ 茶道のい・ろ・は								
事業概要		茶道初心者である小学生が、首里高校茶道部の生徒と共に茶道を学ぶことで、礼儀作法やおもてなし、日本文化、美意識について学習する。また、高校生のお点前を見学及び体験することで、茶道を数年学んだ先の自分自身をイメージし、高校生と質疑応答することで学びを深める。								
現状・課題		学校や家庭のなかで、礼儀作法や客のおもてなし、所作、相手への気遣い、文化や歴史を体験を通して学ぶということは難しい。茶道体験を通じて、上記の内容を学ぶ事で日本文化及びおもてなしの精神を養う。								
事業目的 めざす姿		日本の伝統文化の一つである「茶道」を体験することで、礼儀作法や歴史・文化を学び、お茶で使われる道具類（花、陶器、和菓子）に触れる事で美意識を養う。 同時に首里高校茶道部の生徒のお点前を通して、小学生は茶道について学びを深める。								
対 象		那覇市の小学校に通う1年生から6年生								
募集人数等		定員：20人 申込：22人（うち受講決定数22人） 参加延べ人数：20人 【申込率110%・参加率91%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	12月26日(金)	14:00	～	16:00	首里高等学校	20	0	0	20
内容	01	1. 開講式 2. 茶道ってなあに？ 3. 抹茶ってからだにいいの？ 4. お点前ってなあに？ 5. どうやって飲むの？ 6. お菓子 7. 実際にお茶を点ててみよう 8. 高校生のお点前を体験しよう 9. 高校生に聴いてみよう								
講 師		講師：伊川宗津・（（一社）裏千家淡交会沖縄支部教授）								
【受講生の様子・感想】										
・お茶をたてる事や、飲む作法など、全部楽しかったです。お茶や菓子もお美味かったです。 ・お兄さんお姉さんたちが正さだいじょうぶとか、しつもんにあかるくこたえてくれてうれしかったのしかった ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
10月に行った少年教室「（秋休み特別企画）茶の湯（茶道）を体験しよう！」に参加した児童を中心に、首里高等学校茶道部協力のもと、首里高等学校にて行った。児童を2組に分け、和室にて「座礼」、廊下で「立礼」で茶道に関する学習に取り組んだ。「座礼」では講師と共に、「立礼」では高校生が説明、デモンストレーションをそれぞれ担当し、小学生を相手に熱心に取り組んでいた。受講生の保護者も大半が見学として参加し、休憩時間に受講生である小学生と一緒に、高校生に質問を投げかけ、それに対し、一生懸命答える姿が印象的だった。小学生とは別に教える側であった高校生にもアンケートを取ったところ、「質問に答えられるよう道具の名前を確認したり、自分自身ができていない作法やお点前を知る事ができる良い機会となった。」とあり、高校生にとっても自身の知識や技術を改めて認識できる時間になった。										





